

インターバンクの声（2016 年 8 月 24 日）

昨晚の海外市場の円相場のように、上下 30 銭の値幅もないような円相場であれば、どんな材料が相場を動かすきっかけになっていたのか、気にしない人も結構多いのかも知れない。ただし、相場がかなり大きく変動した日であれば、インターバンクのディーラーであれ、個人投資家の方であれ、ほとんどの人が、その後の相場の行方を判断する上でも相場が動いた要因をチェックするだろう。昨晚のような静かな日でも、7月の米新築住宅販売件数の予想外の増加や8月の米製造業購買担当者景況指数(PMI)速報値の低下が相場材料になっていたとするメディア記事が目立つが、昨日も実際に目の前で相場を追い続けていたニューヨーク時間を担当するディーラーから聞く相場の解説とはギャップがある。彼ら曰く、「新築住宅販売の結果が深く 100 円を割り込みそうだった円相場のさらなる円買いを食い止めたようにも見えたが、むしろニューヨーク原油価格が急に 2 ドル近く上昇したニュースのインパクトが強かった」とのこと。もっとも、ほとんどの市場参加者がジャクソンホールでのイエレン FRB 議長講演に注目しているのは間違いない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。